
カァディスからの手紙（113）

2006年7月7日

カァディスでの生活もあと2ヶ月足らずになってしまいました。先日、大家サンに10月から先の次の契約更新はしない旨報告しました。いずれ撤退しなければならぬ事は確かですから、足腰が弱くならない今のうちに・・・、が正解であることは二人ともヨク承知していいいます。ですが、いよいよとなると、益々カァディスを去りがたい気持ちがつのります。

引越しの準備も少しずつ進めています。引越しといっても家財道具があるわけではなく、衣類・小物・本などが大部分の、ダンボールだけでの引越しですから、普通の引越しと較べれば簡単なものです。それが家具付貸家の一番の利点です。家具どころかナイフ・フォーク・スプーンに至るまで什器一切も揃っていますから、見知らぬ他人の使ったものが気にならなければ入居した当日から普通に生活できます。

でも、日本ではこういうのは流行らないでしょうね。家具にもコダワリがあるだろうし、知らぬ人の使った皿・小鉢などイヤだ、という人も多いでしょう。

私達は二人ともそういうことは殆ど気になりません。特にRの40年の船乗り人生では常に当日まで前任者の居た部屋をそのまま居抜きで使ったわけで、ゴク少数の身の回り品を詰めたスーツ・ケース一つだけの移動が当たり前になっています。

ベッドにしてもホテルなんかは昨日まで赤の他人が寝ていたものだし、食べ物屋の食器だって同じですよ、気にすればキリがないし、気にしなければ引越しだって、移住だって気楽なもんです。行雲流水です。

さて、ムンディアルも準々決勝が終わってこれまでギッシリだった予定も少し隙間が出来てきたので久し振りに遠足に行きました。今日は、そのお話です。

「目の上のタンコブ」の巻

前にスペインの中の英国、ジブラルタルや、モロッコの中のスペイン、セウタに行った話はしましたね。今日はスペインの中のE.E.U.U. 即ち米国の話です。

EE.UU. とは合衆国 **Estados Unidos** エスタードス・ウニードスの略号ですが、何故EとUをダブらすのか、シングルでは欧州連合EUと同じになってしまうからなのでしょうね。もっともそのEU欧州連合はスペイン語では **Unión Europea** ユニオン・エウロペア、UEというからややこしい。

これも前にお話したと思いますが、私達はEE.UU. をエスタードス・ウニードスと正確に聞き取るのに約一年掛かりました。TVのアナウンサーの言葉がどうしてもエスタード・スニードスと聞こえてしまい、ナンダローと一年間辞書を見ながらアタマをひねっていました。今では笑い話ですが大真面目にクビを傾げていたのです。

で、スペインの中にアメリカの飛び地があるのかって？ あるんです。 昨今、しょっちゅうニュースダネになるグァンタナモと同じ米軍基地。 他国の領域内に遠慮会釈もなく軍事基地を持つのは世界の警察を自任するアメリカの得意とするところ。

*



毎度おなじみの周辺地図です。左上に Rota ロタという町がありますね。そのすぐ右上の白いブロックに Base Naval de Rota と書いてありますが、これが米海軍の基地で、右下の La Mata ラ・マタと書いてある港が米海軍艦船の泊地です。

実際には白いブロックは海軍機の飛行場を中心とした基地でラ・マタの艦船泊地とつながっています。地図では Base Naval バセ・ナバル、「海軍基地」と言っていますが、「米国の」海軍とは一言も言っていません。しかし実態は間違いなく米海軍基地、つまり治外法権の区域です。

バスはカアディスの町を出ると赤い線の N 4 4 3 で湾をまたぎ、エル・プエルト・デ・サンタ・マリィア El Puerto de Santa María で一時停車。その後は緑の A 4 9 1 で基地を迂回、ずっと基地を左手に見て最後は黄色の地方道でロタの町に入ります。

地図ではサンタ・マリィアの町から白い地方道で海岸沿いにロタの町に入れるようになっていますが、実際には基地のド真ん中を横切るこんな一般道路は存在しません。だから、バスはラ・マタの艦船基地の手前から右へ大きく迂回しないとロタの町には入れないのです。

スペインはモロッコにある飛び地、セウタとメリージャを返さない。英国はジブラルタルをスペインに返さない。これらも問題ではありますが、一方、米国は世界各地に軍事基地を持って、おこがましくも、だからお前さんの安全は保たれているのだと強弁するわけ。コンなのは目の上のタンコブどころかドタンコブと言いたい。

*



基地を迂回するバスの窓からはレーダー・サイトや大きなパラボラ・アンテナが見えました。巨大な軍用輸送機も木の間がくれに見えていましたが、シャッターチャンスがありませんでした。どうも、デジカメという奴は咄嗟のチャンスを逃さず撮るのは難しい。揺れるバスの中ではなおの事、と、これは言い訳。

*



基地の正門はロタ新市街のバス・センターのすぐ近くにあります。赤い瓦の門の奥がスペインであってスペインでない所。この風景はテレビにも何回も登場しました。

基地の町のご多分に洩れず、ここでも反戦・反米デモがよくあるんです。

一見至極平和な様子ですが、この道路をデモ隊が埋めていた映像を何回も見ました。一般のスペインの人たちは、基地にもアメリカにもいい感じを持っていないように見受けられますが、この町の住人は基地内に仕事を持つ人も多いはず。複雑です。

ファン・カルロスもここの話をしたとき、なんとなく顔をしかめるような感じでしたから、周辺の都市の人も鬱陶しい感じを持っていることは間違いないのでしょう。

*



門の脇の扉には、単に「ロタ海軍基地」としてあり、アメリカとも合衆国とも書いてありません。けれども門前には右のようにレンタ・カー屋がありカーディスプレイでは見かけない英語の看板を掲げてあります。客は多分アメリカ人だけでしょう。

その店の前はタクシー乗り場にもなっていて、これも間違いなく基地内のアメリカ人のみを目当ての商売です。なぜならここは新市街のハズレで、普通の人はこの町外れまでタクシーを拾いに来ることはないはず。しかもここから近い新市街の住人は車を持っている人の比率が高く、タクシーの需要が多いであろう旧市街は新市街を通り抜けた先の海岸近くなのです。



門前町ともいえる新市街の土産物屋の店頭。ここにもたどたどしい英語の表示があり客は基地のアメリカ人であることが分かります。右の写真を見てください。

この店のウインドウで始めて U.S. Naval Station 「米海軍基地」というハッキリした字を見ました。地図にも正門の表示にもアメリカという字は見えなかったけれどこのロタ土産のタイル絵の時計だけが正直にここが「アメリカの基地」だということを謳っていたのです。

ところで、最初の地図ですが、地図マニアRの手持ちの周辺地図10数枚の中で、この地図だけに「アメリカの」とまでは言わずとも、とにかく海軍基地があるという記載があったのです。そのほかの地図は全てこの基地のことは無視。ラ・マタの艦船泊地の防波堤だけは記載されていますがそれだけ。字では何の注釈もありません。

こうなると故意にこの基地を無視したとしか思えません。こんな基地はナイものと思いたい、そういう意思の表れと見るのは考えすぎでしょうか。

ロタの観光案内所でもらった地図も、丁度この門の辺りまでしか入ってなくて、門の向うも艦船泊地の辺も欄外になっていました。



これはロタの町が抱え込んでいるような形の小さな入江。入江の東岸が正面に見える艦船泊地になっています。反対側西岸は旧市街とマリーナ。そして入江の奥の浜、即ちこの写真のすぐ前は波静かな海水浴場になっています。

バスの中からここに来るまで、私達は夫々カメラで基地内をパチパチ撮り続けましたから、バスに軍関係者が乗っていたら不審を感じたかも知れない。そして後をつけてきたら、益々怪しいと思ったことでしょう。北朝鮮のスパイじゃないかと疑われたかも……。 まあ、しかし、ここはスペイン、バスの乗客も街の人もアッケラカン。

それどころか、バス駅からここまでの途中に国家警察があつて、その近くでは警察官がうろうろしてましたが、何の写真を撮っているのかなど全く気にもしてませんでした。 スペインは独裁者フランコの頃からの名残りか、今でも相当な警察国家だと思いますが、その警備の様子はかなりユルユルで、どこの警備を見ても警察官同士が仕事そっちのけで立ち話の方に熱中しているような状態に見えます。 まあ、それは大いに歓迎すべき事なのかも知れませんが、同時に頼りにならない感じもします。

写真の右端に見える白いビルの辺りはここへ来る途中通ったエル・プエルト・デ・サンタ・マリィア **El Puerto de Santa María** の海岸です。

この基地がいつ出来たものか知りませんが、多分第二次世界大戦後のことでしょう。5～60年前ぐらいか？ 基地が出来る前はこの前の浜からサンタ・マリィアまで奇

麗な砂浜が続いていたに違いない。

だから地図には、利用できもしない基地内を貫通する道路が記載されていたのかも知れません。この地図が5～60年以上前に編纂されたとは思えませんが、基地が出来る前はその道路がサンタ・マリィアとロタの町をつなぐ最短経路だったはず。地図の製作者は、こんな基地さえなければこの道路は使えていたのに、と無言の抗議のつもりで通ることが出来ない道路をそのまま記載したのかも知れません。この国の人にはそういうヒネリがあっても不思議ではない、と感じるのです。

*



これは基地のある東岸の反対側。左半分がマリーナ、椰子の葉の陰にはヨットのマストが林立しています。マリーナの向うに見える水平線は大西洋。右手半分が旧市街で、お決まりの教会の尖塔やカスティーヨ castillo=城などがチラホラ見えますね。

真ん中はマリーナの灯台です。ここも今は近代的な設備のいいマリーナですが、一昔前は鄙びた漁港だったはず。今でも少数の漁船はいますが、マリーナの隅に追いやられてヒソソリと舫っているように見えました。そして、マリーナに係留しているクルーザーの多くは基地周辺に住む米軍関係者のものなのでしょう。スペイン国旗を掲げた船はそう多くはありませんでした。

この浜はカァディスとは違って海水浴の人の数はゴク僅か。よその町から来る人は少なくこの町の住人だけなのでしょう。だから、夏の浜にはツキモノのチリングー
ト **chiringuito**=浜の飲食店の数も少なめでした。地元の人ばかりじゃ飲み物食べ物何でも持参で商売もサッパリなのでしょう。

カァディスでも、片手にビーチ・チェアー、もう一方はクーラーやパラソルという人は地元らしい人が殆どです。何故分かるかって？ 家から水着のままで街を通り抜けて浜へでるのは地元住民だからこそ。私達はしませんけどね。

コパ・ムンディアルもいよいよ大詰め近いですね。8強から4強へ絞られた時点でワールド・カップじゃなくてエウロコパ(ユーロ・カップ)の様相になりました。予選リーグ初戦、最悪のスタートでジダンの顔も暗かったのに、その後一試合ごとに調子を上げてきたフランスがこのまま行くのか、それとも土壇場で強力ドイツを見事にひっくり返したイタリーか？ 日曜日が楽しみです。

それにしても、今度の大会もまた欧州の列強の中でスペイン・チームのヒ弱さがモロに出てしまいました。にもかかわらず私達がこの四年間いつも国内リーグを楽しめて来たのは結局アルゼンチンやブラジルをはじめ其他欧州各国の外国人選手が大勢入ってきているからか？ そうだとすれば情けない話ですが、それだけ大勢の超一流選手を世界中から呼べるということはやはりスゴイとも思います。

でも、臍目ではなく、スペインの選手も夫々のクラブに戻って国内リーグの試合が始まれば皆元気になってゲームを楽しませてくれるから不思議です。結局、スペイン人だけのチームは内弁慶なんじゃないかという気がします。そして、フィジカルな面でも列強の力強さには及ばないような気がします。さらに加えて、メンタルな面でも、歯を食いしばってでも勝ちに行く、というシブトサに欠けるのではないのでしょうか？ およそそういうことはスペイン人には不向きであるような気がします。

そのことは、私達がこの4年間腹立たしい思いを持つこともなくノンキに過ごしてこれたこの国の人達の気安さ、心の温かさの裏返しでもあるのでしょう。2010年の南アでの大会には今度のナショナル・チームのうちの若手が成長して、もう少し頑丈・強力なチームになることを期待しています。でも、いいところまで行っってはアッサリ負けてしまうスペイン・チームの方が好感持てるかなー。
